

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会  
CISPR A 作業班 (第 7 回) 議事要旨 (案)

- 1 開催日時：平成 26 年 11 月 19 日 (水) 13 時 30 分～15 時 30 分
- 2 開催場所：経済産業省 別館 11 階 1107 会議室
- 3 出席者 (順不同)

【構成員】篠塚主任 (NICT)、田島主任代理 (NTT-AT)、雨宮構成員 (NTT-AT)、石上構成員 (NICT)、中村構成員 (JBMIA)、平田構成員 (富士ゼロックス)、中嶋構成員 (JQA)、益田構成員 (JET)、三塚構成員 (TELEC)、橋高構成員 (ARIB)、井上氏 (針谷構成員代理)、宮田構成員 (富士通)、児山構成員 (ダイキン工業)

【関係者】藤井氏 (NICT)、廣瀬氏 (パナソニック)、服部氏 (NTT-AT)

【事務局】総務省：澤邊専門官、川口電波監視官、野村電磁障害係長、小栗官

#### 4 議事概要

- (1) 資料 7-1 前回議事要旨 (案) について、修正意見等があれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された。

- (2) 資料 7-2-1 フランクフルト会議 A 小委員会総会審議結果 (案) について篠塚主任から、資料 7-2-2 フランクフルト会議 A 小委員会 WG1 審議結果 (案) について石上構成員から、資料 7-2-3 フランクフルト会議 A 小委員会 WG2 審議結果 (案) について田島主任代理から報告が行われた。

以上の報告を受けて、質疑応答が行われた。質疑応答におけるポイントは以下のとおり。

- ・ 測定距離と被試験機器 (EUT) との関連で、SC/B においては、小型の 1.2m の EUT は 3m 法で測定し、3m の EUT の場合は、3m 法で許容値の補正をして測定をするとの規定があるが、SC/A においても同様の測定法をとっているのか。

→ 現在は 30MHz 以下の放射妨害波測定についての CD 素案を作成しており、3m 法は 1.5m 以下の EUT、5m 法は 2.5m 以下の EUT、10m 法は 5m 以下の EUT という対応関係で測定するというものである。SC/B で議論されているものは 30MHz 以下に限らないものであり、30MHz を超えるものについては SC/A では定めはない。

EUT について距離のみでサイズを決めるということでのよいのかという問題がある。サイトの評価を含めて考慮すべきである。5m より大きい EUT の場合、30m 法電波暗室を用いなければならないとすると不便であり、アンテナを移動させて 10m 法電波暗室で測定可能とするほうがよいのではないか。

上記問題点について、平田構成員が調査の上、後日メール審議を行うこととなった。

(3) 資料 7-3-1 電波利用環境委員会報告概要（案）（SC/A 関連）、資料 7-3-2 電波利用環境委員会報告（案）（SC/A 関連）について、篠塚主任から説明があり、特段の異議なく承認された。

(4) その他

- ・ 本作業班の議論を踏まえた資料の修正期限は、本日から 1 週間までを目途に事務局宛に送付することとなった。
- ・ 本日の審議結果をもとに、12 月 24 日の電波利用環境委員会において、篠塚主任がフランクフルト会議の審議結果について報告する旨発言した。